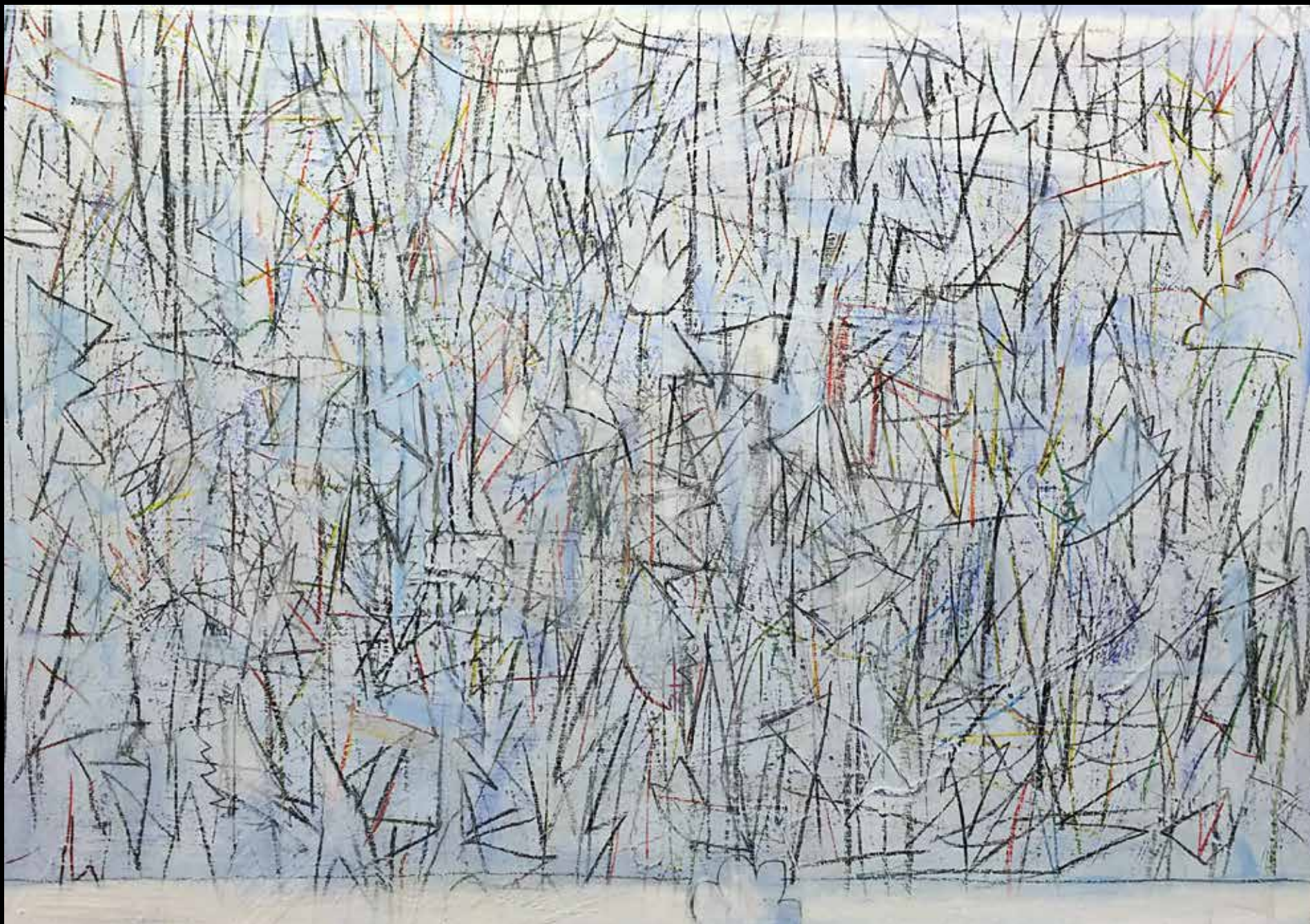


絵画&陶 -静寂の声 II- 伊藤彰規・矢萩典行 作品展



「雪のconstellation」 73 × 103cm 紙にアクリル



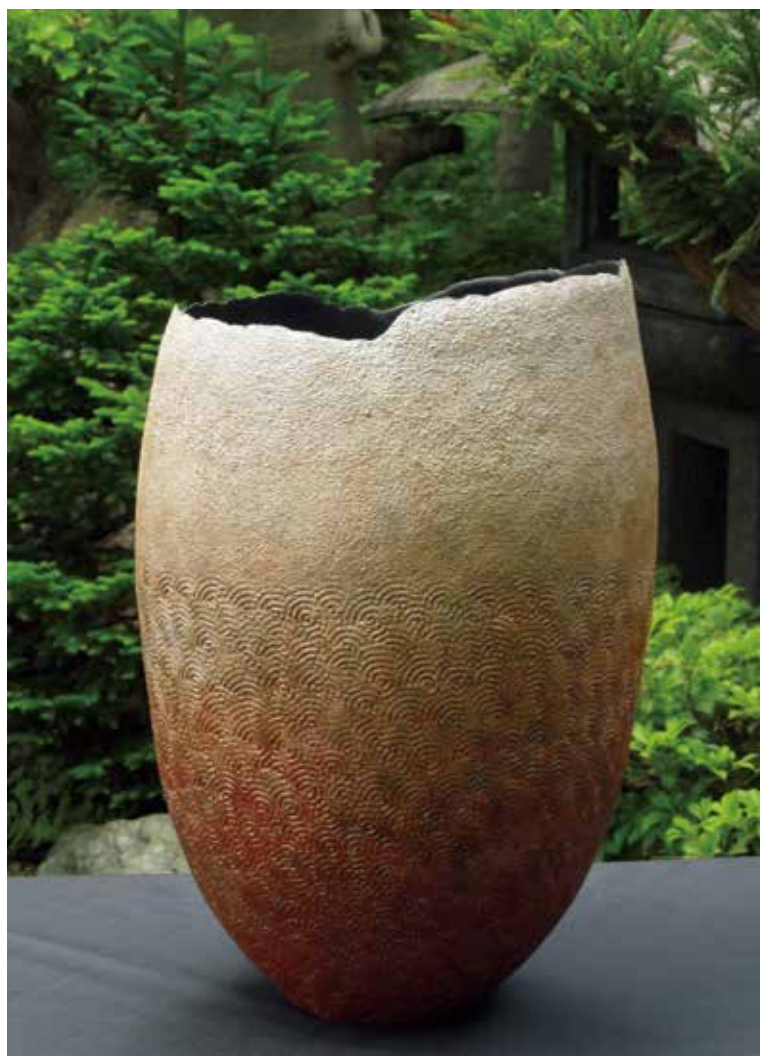
la lumiere de okhotsk (上左)

la vie en rose (上右)

冬の constellation (下左)

青の時間 (下右)





音楽と陶と光のコラボレーション
'17年10月青森（陶と光の演出、矢萩）

絵画&陶 -静寂の声 II-

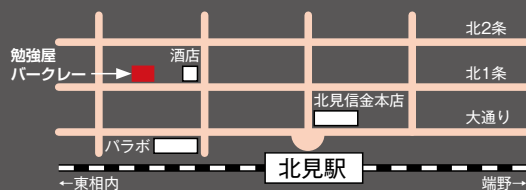
伊藤彰規・矢萩典行 作品展



'19 8/8(木)~13(火)

会場 北見市北1条西2丁目
勉強屋パークレー2階

開館時間 11:00~18:00 入場無料
企画 『伊藤彰規・矢萩典行 作品展』実行委員会
問い合わせ 090-9524-9315(長南)



二人展に寄せて

音楽や舞台芸術・映像などの表現は、その成り立ち自体に時間という媒介を持っています。対して観るものとしての美術—この場合は絵画や陶ということですが—は、時間という媒介を持たないところで成り立っています。

発する者と受容れる者の間を媒介する時間の進行は、強い共感と時には反感や憎悪を生みやすいし、その様にも作用させてきたのでしょう。

絵画や陶における時間は作者によって確実に占有されているものです。着想から完成に至る過程の長い時間はキャンバスやフォルムに内在され、固着され、観る者にはその最後の結末だけが提示されるのみです。そんな結末を見せられて、観る者は、ときに「置き去りにされた」との感覚を覚えながらも、それに長々と対峙するのです。

静かであり頑なに動かないものの中に固着された時間は溶けてくれるのか！ その思いや声は聴こえてくるのか！

それはたぶん難しいのでしょう。「それほどたやすく踏み込まれてなるものか」きっとそう思っている。それが作品の強さなのです。

それでも私は聴きたいと試みる！ その静寂のなかにある声を。

長南 進一